

令和6年度 外部評価シート

施設名	県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 評価項目ごとの評価（対象期間：令和3年～6年）

評価項目	評価
維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> 清掃や植栽管理をはじめ、整理整頓がされており、綺麗に管理されている。 県の計画修繕に加え、施設において適宜害獣対策や修繕が行われており、安全管理についても安心できる。
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> 隣接する円山川を活用し、カヌーやSUPといったウォータースポーツプログラムを低価格で安全に提供できている。 5月～10月の無休営業やJRCA(日本レクリエーションカヌー協会)公認カヌースクール資格を取得し、カヌーインストラクターの育成や講習会を開講するなど、地域のニーズに寄り添った営業を行えている。 自主事業については、「アソビュー！」や「じゃらん」といった民間サイトの利用により、集客の効果がみられる。民間サイト利用者の統計を活用して、一般客層の更なる増加を狙えるのではないかと考えられる。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 近年、コロナウイルスの影響で低い水準となっていたが、年々回復し、令和5年度の利用者数はコロナ前(令和元年度)の94%となっている。 自然学校利用団体の利用者数の減少については、少子化及び天候に左右される点を考慮する必要がある。 一般客向けのイメージがなく、自然学校以外の認知度を上げるため、団体、個人、インバウンド等ターゲットごとの利用状況を把握しPRしていくことが必要である。
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入・自主事業収入等、計画を下回っており、改善策が期待される。 城崎温泉駅からのマイクロバス送迎や芝生広場をライブ会場として利用するなど、都市部より人を呼び込むための取り組みが必要。
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> CSRという多様な要素を、少人数で上手に施設運営されている。 施設運営へのモチベーションや能力を持った職員を確保できていることは素晴らしいが、現職員の人力に頼る部分が大きく、今の運営を持続するためには、賃金、モチベーションの維持や人材確保が必要である。また、後継できるマニュアルづくりや人材育成が必要である。
その他	—

2 残りの指定期間における改善点

城崎温泉近郊に位置するため、城崎温泉宿泊者に向けた広報を強化するなど、近隣の旅館や道の駅と連携し、インバウンドや一般客を呼び込むため、チラシやSNS広告を活用した利用提案の更なる情報発信に期待する。

また、すでに協定を締結している芸術文化観光専門職大学との連携を強化し、学生視点での集客方法を探り、より一層の利用者数増加に期待する。

予算面に課題はあるが、外部企画委員会を設置するなど、期間限定や年に1回、単発の大型集客が見込めるイベントへのチャレンジが求められる。

アンケート収集方法についても、利用者だけでなくSNS等で施設を知っていただくためのアンケート調査を実施し、ニーズを把握することで収益改善につながると思われる。

3 次期公募に向けた検討課題等

食堂の通年営業が難しい現状を改善するため、チャレンジショップやキッチンカーの出店を促す情報発信を行うなど、飲食物提供の仕組みづくりが求められる。

また、投資が必要となるが、プール施設のリニューアル(すべり台や幼児用プールなど)や半屋内の BBQ 施設を設置するなど、CSR 施設の概念のアップデートが必要である。

県においては、前回公募をおこなった令和2年度とは、社会状況も大きく変わっているため、使用料や指定管理料など改めて検討していく必要がある。

(参考) 県立健康増進施設外部評価委員会委員

氏名	主な役職	備考
山口 泰雄	神戸大学 名誉教授	委員長
秋永 圭子	一般社団法人ガールスカウト兵庫県連盟 連盟長	
宇田 名保美	中小企業診断士	
高見 彰	関西国際大学経営学部経営学科 教授	
山崎 清治	NPO法人生涯学習サポート兵庫 理事長	